

猪苗代湖及び裏磐梯湖沼水環境保全推進計画(骨子案)に係る意見とその対応について
10月15日開催の環境審議会で出された意見

計画(素案)のページ数	委員名	内容	対応
P 4	和田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ pHの推移によると、平成7年度を境に右肩上がりしているが、CODは平成13年度から上昇している。pHが上昇した平成7年度は特筆すべき出来事があったのか。 ・ その他の施策体系で"E"がぬけているのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特異的な事象について把握はしていないが、「第2章 猪苗代湖及び裏磐梯湖沼の水質等現状」にpHの上昇要因及びCODの上昇要因を記載した。
P 15	和田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ その他の施策体系で"E"がぬけているのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 錯誤であり、「E 水環境保全思想の啓発促進、地域交流・水文化の形成」を記載した。
P 17、18	佐藤(幹)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ pHの上昇を生物の多様性という観点から評価できないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物多様性への配慮の必要性を記載した。
P 20, 31, 32	津金委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上流域としての公共下水道事業、ヨシの刈取り、たい肥化などの取組みを推進している。 ・ 上流域の住民は自分達が負担しながら水質浄化をしようとする意識を持っており、それを理解した上でもっと広い地域全体で取り組んでいくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 流域のみならず「県民が一体となった水環境保全活動」、「流域が一体となった組織による対策の推進」及び「上流域と下流域の協力連携」による施策を進めていく。
P 1	長林部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然現象のうねりの中の問題を受け止めながらもどのように水質保全をしていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「計画改定の趣旨」に基本的な認識と考え方を記載した。
P 4, 5	堀金委員 長林部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猪苗代湖特有の自然の浄化機能の低下とあるが機能低下はなぜ起こったのか。 ・ 猪苗代湖特有の自然の浄化機能の低下とあるが、中性化と機能低下及び富栄養化について、わかりやすいよう記載したほうが望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「第2章 猪苗代湖及び裏磐梯湖沼の水質等の現状」で、自然浄化機能の説明、自然浄化機能の低下によるリン濃度の上昇が富栄養化につながる旨の説明を記載した。